

クラス番号	637	担当教員名	児玉 善郎
テーマ	高齢者・障害者をはじめすべての人の安全・安心な生活を支える福祉住環境		
著書・論文	【著書】『住まいの論理』（共編著）嵯峨野書院、1995年、『居住福祉学』（共著）有斐閣、2011年 【論文】「高齢者住宅に住み替えた高齢者世帯の居住実態と課題」日本建築学会大会学術講演梗概集、2010年／「障害者の居住を保障する政策の必要性」建築ジャーナル、2004年		
研究課題等	【研究課題】高齢者・障害者の住居・施設/高齢者の住宅改修支援/東日本大震災の被災者支援/ユニバーサルデザインのまちづくり		

## ゼミナール概要

キーワード：福祉住環境、居住福祉、高齢者・障害者住宅、住宅改修、施設環境、バリアフリー、ユニバーサルデザイン

目的、内容、方法等：

高齢者・障害者をはじめだれもが安全で快適な生活をおくるためには、生活の基盤となる居住環境が重要です。

本ゼミでは、高齢者・障害者をはじめすべての人にとっての生活を支える住居、施設やまちの環境について、現状の課題と今後の改善方策について検討します。

住居、施設やまちの環境を検討する上では、ハードな物的環境の問題だけでなく、そこで営まれている生活に関連した家族環境、地域のコミュニティ環境、ケアサービス環境などソフトな環境を含めて検討します。

対象とする福祉住環境の要素としては、住居・施設といった生活の拠点だけでなく、道路・交通機関、公園、公共施設、生活利便施設など地域での生活にかかわる幅広い要素を対象として考えます。また、生活の拠点としては、住居だけでなく、グループホーム、特別養護老人ホーム等の入所施設や長期療養施設としての病院なども検討の対象に含めます。

授業計画：

ゼミナールの進め方としては、地域における住居とまちの環境に関する現状の問題や課題について、文献、統計資料や既存研究論文等を調べ整理することにより、基礎的な認識を深めます。また、国内や海外における高齢者・障害者をはじめすべての人にとっての福祉住環境に関する先進的な取り組み事例についても学びます。

さらに、いくつかのグループに分かれて、住居、施設やまちの環境に関するテーマを設定し、フィールドスタディにもとづき現状の課題や改善方策についてレポートにまとめます。各グループがまとめたレポート内容に関する報告をもとにゼミで討論を行い、理解と認識を深めます。

グループ研究においては、フィールドワークを重視しています。高齢者・障害者をはじめ様々な対象の住居、施設やまちの環境を実際に調査することにより、問題を本質的に捉えることをめざします。

4年生においては、グループ研究での経験を踏まえて、各自が自主的、主体的に研究テーマを設定し、テーマに応じて調査を企画、実施することにより、専門演習論文をまとめます。

## 担当教員からのメッセージ



専門演習ゼミにおける2年間の学びを有意義なものとするためには、ゼミに所属した学生一人一人の積極的な取り組み姿勢が不可欠です。ゼミに無断で遅刻や欠席することなく、主体的かつ積極的にゼミでの学習・研究活動に参加してください。

ゼミ合宿やコンパなどをゼミ生が主体的に企画・実施することにより、仲間同士や教員とのつながりを深め、皆さんにとって充実したゼミになることを期待しています。